

ひまわりの丘第三学園

令和元年度 検証評価調書（共通分野）

評価基準：岐阜県第三者サービス評価基準

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-3 事業計画の策定

I-3- (2) 事業計画が適切に策定されている。	
7	I-3- (2) - 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。
着眼点	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、利用者や家族等に周知（配布、掲示、説明等）されている。
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を利用者会や家族会等で説明している。
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、利用者等がより理解しやすいような工夫を行っている。
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、利用者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。
委員からの意見： ・園長自らが質疑応答の場を年2回設けることで理解を促されている。 ・掲示物について、ルビを付したり映像化する等、利用者が理解しやすいよう工夫をされている。 ・各職員の理解度を確認し、不確かな部分については丁寧な補足を願いたい。 ・検証をする前に、その意図が理解できるよう職員間で意思統一を図って欲しい。	
施設の対応等： ・自治会役員会（利用者代表の集まり）にて事業計画の内容の説明を行う。育成会総会、面会日にはご家族・ご利用者に向け、事業計画の概要を説明する。 ・年度当初の園便り（ご利用者にはルビを記載）に事業計画を掲載し、掲示・配布・周知をする。	

II- 4		地域との交流、地域貢献
II- 4- (3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
27	II- 4- (3) -	地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。
着眼点	<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。
	<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。
	<input type="checkbox"/>	多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。
	<input type="checkbox"/>	福祉施設・事業所（法人）が有する福祉サービスの提供に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。
	<input type="checkbox"/>	地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。
<p>委員からの意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの丘の特性を最大限に生かせる工夫を模索され、その上で地域に貢献されている。 ・地域生活支援センターの活用をより広くPRしていただきたい。 ・施設の特性から考えると、自己評価結果は妥当と思われる。 		
<p>施設の対応等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援センターに関しては、ひまわりの丘広報誌などを活用し、概要等わかりやすく明示し、地域へ広く周知・PRをしていく。 		

ひまわりの丘第三学園

令和元年度 検証評価調書（専門分野）

評価基準：岐阜県第三者サービス評価基準

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本

A③ A-2-(1) 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。 -①	
着眼点	<input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況、生活習慣や望む生活等を理解し、一人ひとりの自律・自立に配慮した個別支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者が自力で行う生活上の行為は見守りの姿勢を基本とし、必要な時には迅速に支援している。 <input type="checkbox"/> 自律・自立生活のための動機づけを行っている。 <input type="checkbox"/> 生活の自己管理ができるように支援している。 <input type="checkbox"/> 行政手続、生活関連サービス等の利用を支援している。
委員からの意見： ・利用者数が多いため、一人ひとりに対する支援時間が多く取れないと事が前年度のb評価の要因になっていると思う。担当制、組、棟等のユニットによる支援が強化された点は改善に向けた取り組みであると評価できる。更に、友達や仲間の関係を活用し、利用すべきであると思う。（利用者との懇談で、友達、仲間の名前が次々と出ていた。）	
施設の対応等： ・ユニットの担当を中心に利用者の特性に配慮しながら、一人ひとりに合わせた支援を行うとともに、活動や普段の様子から利用者同士の関係性を把握し、生活の中で仲間と同じ役割を持ったり、利用者間で助け合えるような生活を支援する。	

A-2-(2) 日常的な生活支援

A④ A-2-(2) 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。 -①	
着眼点	<input type="checkbox"/> 食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本としておいしく、楽しく食べられるように工夫されている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況に応じて食事の提供と支援等を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況に応じて入浴支援や清拭等を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況に応じて排せつ支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況に応じて移動・移乗支援を行っている。
委員からの意見： ・個別支援計画、健康管理の個人票などが、かなり精密に作られており、その情報を共有して活用すべきであると感じた。	
施設の対応等： ・日頃の生活の様子からユニットでの支援を重視し、職員間の意思統一を図りながら支援が統一できるようにする。 ・個別支援計画に変更があった場合は朝会、棟会議などで担当職員より連絡しているが、更に個別支援計画の進捗状況も定期的に確認をしている。	

A-2-(3) 生活環境

A⑨	
A-2-(3) 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	
-①	
着眼点	<input type="checkbox"/> 利用者の居室や日中活動の場等は、安心・安全に配慮されている。 <input type="checkbox"/> 居室、食堂、浴室、トイレ等は、清潔、適温と明るい雰囲気を保っている。 <input type="checkbox"/> 利用者が思い思いに過ごせるよう、また安眠（休息）できるよう生活環境の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 他の利用者に影響を及ぼすような場合、一時的に他の部屋を使用するなどの対応と支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 生活環境について、利用者の意向等を把握する取組と改善の工夫を行っている。
委員からの意見： ・「適時適温での食事提供に難しさがある」ということが要因で前年度評価がb評価であると思うが、適温と感じる温度には好みがあり個人差が大きい。食事は健康面だけでなく人間性の形成の面でも重要なものである。 ・利用者個人の各種記録をされており、記録を活用した日常的生活支援を期待したい。 ・簡単なカーテンのような仕切りが必要ではないか。（4人部屋等）	
施設の対応等： ・生活環境について、利用者の意向・状況を記録に残し、職員間で情報共有ができるようにしていく。また、利用者の要望・特性・ADLに合わせて、その都度対応をしていく。（利用者の関係性が悪くなった時は、居室の見直しや、個室化など環境整備を検討する。） ・カーテンの設置については行動特性上、破損の可能性が高いため取り付けは困難だが、プライバシー保護の配慮は引き続き行っていく。	

A-2-(6) 社会参加、学習支援

A⑬	
A-2-(6) 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	
-①	
着眼点	<input type="checkbox"/> 利用者の希望と意向を把握し、社会参加に資する情報や学習・体験の機会を提供する等、社会参加への支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の外出・外泊や友人との交流等について、利用者を尊重して柔軟な対応や支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者や家族等の希望と意向を尊重して学習支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の社会参加や学習の意欲を高めるための支援と工夫を行っている。
委員からの意見： ・人員については、増員が必要かもしれないが、組・友達・仲間的なグループの関係性を把握して活用することを考えるべきではないか。更にそのような仲間やユニットのようなグループを積極的に作ることを考えるべきである。	
施設の対応等： ・外出などの活動は、ユニット単位で利用者同士での関係性を考慮し、職員配置や活動内容を工夫して実施できる計画を立てていく。 また、利用者同士の関係性、特性に配慮した居室編成、グループ外出、余暇活動、地域行事参加（お祭り、学園祭、スポーツ大会など）も引き続き行っていく。	

A-5 県独自項目

A-5-(2) IT技術や知識の修得

A② A-5-(2) -①	利用者の社会生活に必要となるIT技術（パソコン、インターネット、メールの利用等）や知識の修得に向けた支援をしている。
着眼点	<input type="checkbox"/> 社会生活に必要となるIT技術や知識の修得のための情報発信をしている。 <input type="checkbox"/> IT技術や知識修得のための研修会に参加できる仕組みがある。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて職員が相談に応じている。
委員からの意見： ・興味関心のあるご利用者がおられれば、使用を促してほしい。 ・知識習得という点では少しハードルが高いため、b評価は妥当と思われる。	
施設の対応等： ・地域や関係機関でイベントがあった場合、施設で対応できる範囲で情報提供をして、希望する利用者がいた場合は参加できる体制を整える。 ・ITについて興味のある利用者からの相談があった場合、職員の知識の範囲で計画的に対応していく。また、現在多床室が主であるが、2年後に完成する新施設では個室になることから、インターネット回線など利用者IT技術修得のための環境を整えるなどの対応を検討していく。	